

苦小牧民報

10月24日
月曜日

発行所 苦小牧民報社 〒053-8611 苦小牧市若草町3丁目1番8号 代表電話 0144(32)5311

月決め購読料(税込み)2,440円(1部120円)

苦小牧市 市民ホール テーマにフォーラム

公共施設の方向性探る

市長「長期的視点で柔軟に」強調

苦小牧市は23日、建設を計画する「市民ホール(仮称)」をテーマにした市民フォーラムを苦小牧市民会館で開いた。市が市民ホールの方向性を市民へ発信する初の機会。文化施設の先進的な運営で知られる岐阜卓の可児市文化創造センターAria(アーラ)の衛紀生(えい・きせい)館長の講演や、岩倉博文市長と市民が意見交換するパネルディスカッションを通じ、来場者は市民ホールの在り方について考えを深めた。



市民ホールの在り方について、衛館長(右から4人目)を交えて岩倉市長や関係者が意見を交わした

市民ホールは、今年で築48年たつて老朽化した市民会館の建て替えて、周辺の公共施設と統合した複合施設を建設する構想。周辺の文化会館や労働福祉センターなどを候補にした施設の方向性について検討を進め、2015年度までに市民や有識者を交えた検討委員会の議論を経て基本構想を固めた。17年度には建設地や施設機能を含めた基本計画を完成させる予定だ。

約200人が来場した市民フォーラムはこれまでの議論の経過を発信し、来場者へのアンケートを通じて市民意見を把握することも狙っていた。

催。あいさつで岩倉市長は「こ

れからの時代、市民生活がどう変わるのかを十分に踏まえ、市民ホールを考えたい」と語り、長期的な視点や柔軟な発想で施設を建てる重要性を強調した。

講演で衛館長は、公共施設の役割について「税金で設置し、運営する公共施設は社会的責任が求められる。一部の愛好者や特権階級のための芸術文化、施設では駄目だ」と

指摘。コンサートや演劇などを催すだけでなく、芸術活動のワークショップなどを通じて貧困家庭や障害者、不登校児などを支援している可児市文化創造センター・アーラの実践例を紹介した。

続くパネリストは、市民ホールでは、岩倉市長、市民ホールワーキンググループの黒岩真美さんと山口勝次さん、衛館長がパネリストとなって意見交換。アーラの活動について「とても壮大なことを実現し、成功している」と知って驚いた。苦小牧でもできるのではないと思った」といった感想の他、「常識を超えた取り組みをどう創出したのか」「リピーターを増やす方法は何か」などと衛館長への質問も相次いだ。衛館長は「劇場は体温が感じられるべき施設だと思っているので、そこで働く人間のキャラクターが重要で、この資産こそが大切だ」とも助言した。

パネリストのやりとりに目を傾けていた市内しらかは町の星雅博さん(67)は「施設機能や立地の話などは聞けなかったのは予想外だったが、公共施設の新しい考え方の話はすごく面白かった」と話していた。

